

経営体の概要

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ・経営体名：
JAしおのや梨部会 | ・経営体名：
JAなす南梨部会 |
| ・所在地：
栃木県さくら市 | ・所在地：
栃木県那須郡那珂川町 |
| ・栽培作物・作付面積：
なし・21ha | ・栽培作物・作付面積：
なし・55ha |
| ・部会員数：
15名(令和6年3月現在) | ・部会員数：
39名(令和6年3月現在) |

導入技術

○farmo気象センサー
株式会社farmo製

- ・設置した場所の気温、湿度、照度、降水量などの気象情報をリアルタイムで計測できる。
- ・データは携帯端末、PCやタブレット等で“いつでも”“どこでも”“だれにでも”確認できる。
- ・機材が安価で観測データの送信にモバイル回線等の利用がないので通信コストがかからない。



写真1 気象センサー

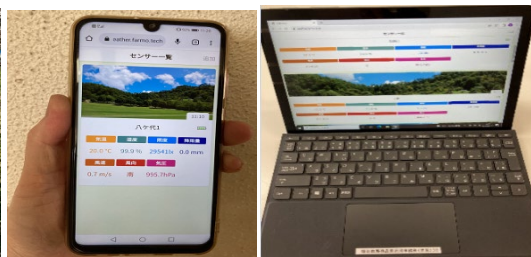


写真2 データの閲覧

導入経緯

- 近年、気候変動によりなし生産に影響を及ぼしている。とりわけ開花期の前進化が顕著となっており、降霜や低温などに遭遇する年が増加し、晩霜対策及び結実対策が課題であった。
- そこで、気候変動に適応した安定的ななし生産を行うため、気象データのモニタリングシステムや収集したデータを活用した、安定生産及び技術対策を目的に、2022年4月及び2023年1月に気象センサーを導入した。

取組の特徴・効果

- 班内ごとに気象センサーを導入（JAしおのや梨部会3台、JAなす南梨部会12台）したことで、部会員一人一人への同機材に対する意識づけや部会内でのデータの共有化が図られている。
- スマートフォン・タブレット端末等から気象データが見える化されるため、人工受粉適否の判断や燃焼法による晩霜対策への気運、適否の判断に活用。また、温度確認のためのほ場への移動作業がなくなり疲労が軽減された。
- 関係機関・団体もデータを共有し、データによる指導支援、災害時の早急な対応にも活用されている。

【今後の予定】

気象データを利用した生育・品質予測、病虫害発生予測等の提示を行い、収量・品質向上、安定生産を目指す。